

速報展

発掘された鈴鹿 2023

2024.3.16 (土) – 6.16 (日)

古墳の全長判明！

富士山1号墳（3次） 国分町

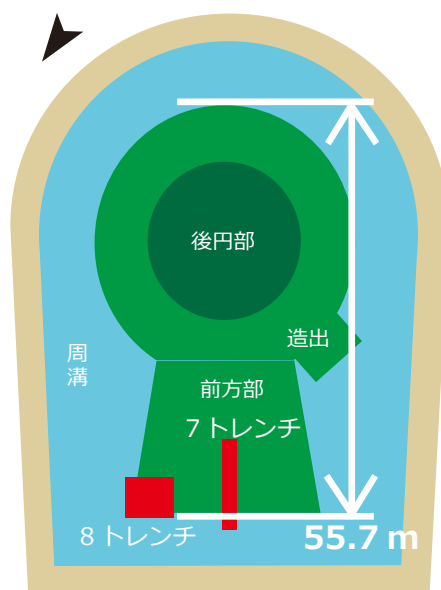
7月3日～1月17日 保存目的調査（学術） 45㎡



富士山1号墳は、長らく竹木が鬱蒼と茂り、墳丘を確認することができない状況でしたが、令和2年早春に地元によって竹林が伐採され、説明板が設置されました。これを機に、鈴鹿市は現況の測量図を作成し、令和3年度から発掘調査に着手しました。これまでの調査の結果、前方部が低く短い帆立貝式前方後円墳であること、後円部が二段築成で葺石が伴うこと、造出が後円部に取り付くこと等がわかりました。築造時期は出土遺物から5世紀後半頃まで遡ると考えられます。今回の調査は全長を確認するため、前方部において実施しました。

推定される中軸線上に前方部上面から周溝にかけて調査区（7トレンチ）を設定しました。前方部上面ではごくわずかですが、盛り土されていたことが確認できました。墳丘斜面の葺石は多くが崩落していましたが、かろうじて基底石と考えられるやや大きな石を確認することができました。2次調査で確認した後円部の基底石の位置とあわせて、全長が55.7mあることが明らかとなりました。

前方部隅の調査区（8トレンチ）では、墳丘斜面に整然と並ぶ葺石を確認することができました。



8トレンチ 前方部前面葺石（南西から）



7トレンチ 前方部上面（南東から）



7トレンチ 前方部前面葺石（南西から）



鈴鹿市考古博物館

Suzuka Municipal Museum of Archaeology

ほっぽうかん が
北方官衙

東西道路の幅を初めて確認！

しせき い せ こと ふ あと ちょうじゃ や しき い せき
史跡 伊勢国府跡（長者屋敷遺跡 42 次） 広瀬町

2月15日～3月28日 保存目的調査（学術） 144 m²



長者屋敷遺跡は、平成4（1992）年から始まった学術調査によって、近江国と瓜二つの政庁跡を確認し、出土した重圈文軒瓦から奈良時代の国府跡であることが明らかとなり、平成14（2002）年3月に「伊勢国府跡」として国の史跡に指定されました。

三重県埋蔵文化財センターによる遺跡の北西部の調査で多数の溝が見つかり、政庁の北に幅12mの道路、120m四方を基準とした碁盤目状の区画が広がることが指摘されました。区画内に建ち並ぶ瓦葺の建物は国府の業務を行う施設だと考えられることから、北方官衙※と呼んでいます。現在、南北大路を中心に東西各2区画、南北3区画の存在が推定されています。近年の調査で南東部の区画が南へ張り出していたことが明らかとなっています。

今回の調査は北方官衙の南北3区画の内、南区画と中央区画の間で実施しました（図参照）。その結果、南区画の北辺と中央区画の南辺の堀に伴う溝がそれぞれ見つかり、2つの区画の間に15m幅の東西道路があることがわかりました。これまでの道路幅の基準は12mとされてきたことから、北方官衙の造営計画について再検討する必要がでてきました。

※官衙（かんが） 役所のこと

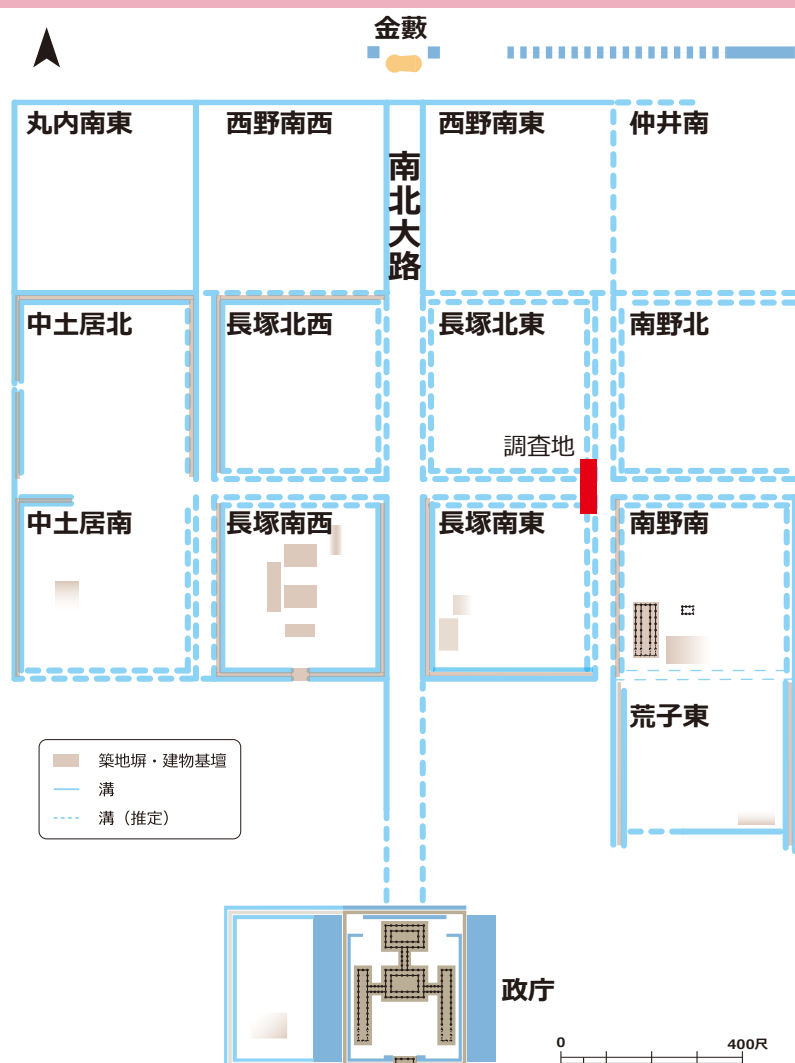


図 伊勢国府跡 政庁・北方官衙 模式図及び区画の名称



長塚北東区画 堀に伴う溝 検出状況（北から）



長塚南東区画 堀に伴う溝 検出状況（南から）



出土押印瓦
「天」

やよい じ だい

弥生時代の大集落！&古代の区画の東西規模確定か！？

ばんじょうざん い せき

磐城山遺跡（16-2次・17次） 木田町

12月15日～3月31日、5月8日～9月29日 農地改良に伴う記録保存調査 200㎡、268㎡

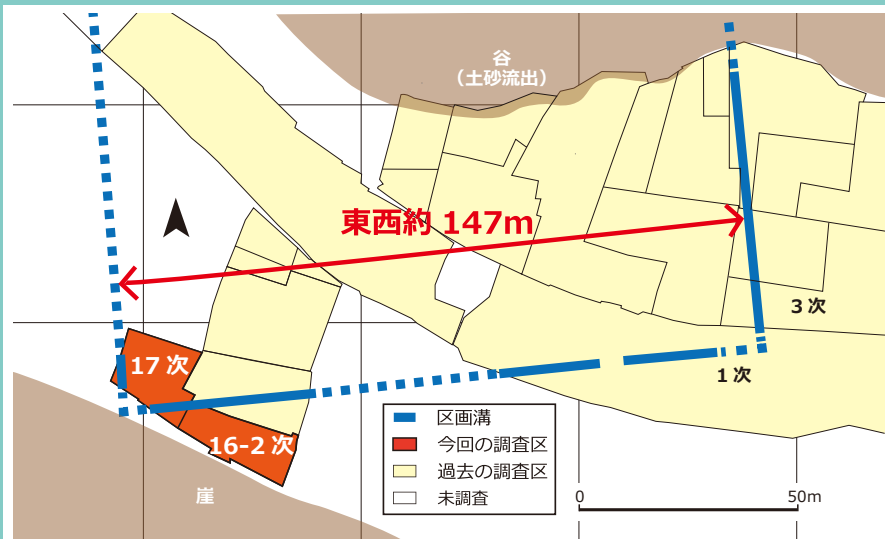
磐城山遺跡では、これまでに300棟をこえる^{たてあなだてもの}竪穴建物が確認されており、弥生時代後期の大規模な集落と古墳時代後期の小規模な集落が営まれていたことがわかっています。また、古墳時代の終わりから^{あすか じ だい}飛鳥時代頃の方形区画や奈良・平安時代の^{へいあん じ だい}掘立柱建物群、室町時代の^{むろまち じ だい}木田城に関連する^{いこう}遺構等が著しく重複しています。

今回の調査でも、主に弥生時代後期の竪穴建物が15棟以上確認できました。中には、同じ場所で少しだけ位置をずらしながら3回以上も建て替えられているものもあります。この場所は鈴鹿川を見下ろせる台地の縁辺にあたり、居住するのに絶好の立地だったと推定できます。

方形区画に伴う溝は、1・3次調査で南東隅が確認されており、今回の調査でその南辺の延長と西辺にあたる溝を確認しました。南西隅は未確認ですが、区画の東西規模が約147mに及ぶ可能性が出てきました。このような大規模な区画溝は、^{みろくじかんがいせき}弥勒寺官衙遺跡（岐阜県関市）などで見つかっていて、一般的に^{ぐんが}郡衙※₁の^{しょうそう}正倉※₂を区画するための溝と考えられています。ただし、磐城山遺跡の区画溝は郡衙の成立よりも年代的に古く、郡衙の正倉の溝とは考えにくいので、大和朝廷の地方における直轄地である「屯倉」や、地方豪族の私的な倉庫である「^{たどころ}田荘」などの可能性を考えています。

※1 郡衙 現在の市役所にあたる古代の役所

※2 正倉 役所に納められた税を保管する倉庫



確認された区画



重複する竪穴建物（北西から）



弥生土器出土状況（東から）



区画溝（西から）

へいあん じ だい

平安時代の集落か！？

かやまち い せき

萱町遺跡（5次） 神戸八丁目

6月16日～7月20日 個人住宅建築に伴う記録保存調査 28.2㎡

萱町遺跡がある「神戸」の地名は、^{りつりょうこっ か}律令国家から^{じんぐう}神宮に与えられた^こ戸（≡領地）に由来します。「かんべ」、「こうべ」、「ごうど」など読み方に差はあるものの日本各地に残されています。近年、東に隣接する^{す か}須賀町一帯に広がる須賀遺跡の調査では、神宮の炊事場である「^{す か さきの}須加崎御厨」に関連すると考えられる遺構や遺物が確認されています。

今回、^{ちゅうけつ}柱穴や遺物を多く含む大型の落ち込みが見つかりましたが、建物の基礎の掘削によって壊される範囲に調査を限定したため、遺構の全容や性格を把握することは困難でした。出土遺物は古代が中心で、特に平安時代後期（11世紀頃）のものが多くことから、その頃に生活が営まれていたと考えられます。この辺り一帯は、奈良時代から平安時代にかけて神宮との関係が強かった地域と考えられており、今回確認された遺構や遺物もそれらに関わる人々によって残された可能性が高いと考えられます。



4区 掘削状況（西から）



速報展関連イベント

■ スライド説明会

① 磐城山遺跡

5月19日（日）13：30～

② 伊勢国府跡・富士山1号墳

6月2日（日）13：30～

講師 発掘調査担当者

考古博物館
公式 Facebook



鈴鹿市考古博物館

Suzuka Municipal Museum of Archaeology

〒513-0013 鈴鹿市国分町 224

TEL059-374-1994 FAX059-374-0986

URL <https://www.city.suzuka.lg.jp/kouko/21>

E-mail kokohakubutsukan@city.suzuka.lg.jp



考古博物館
公式 X

